

子どもたちの想像する力

子どもたちは想像力で、ここではない別の世界にも自由に行くことができます。

最近、年長組の女の子たちの間では、ペットの犬や猫を作ることが、ブームになっています。

あるとき子どもたちと先生との会話の中で「動物園とか、どこかに出かけたね・・・。」という話になったそうです。でも、今の状況では人が集まる動物園や遊園地には行けません。

そこで子どもたちは考えました。空き箱やトイレトペーパーの芯をつかって犬や猫を作って、そのペットを連れて、広い世界に散歩に出かけることにしました。

金色の首輪をつけた犬がいたり、ピンと立ったしっぽにリボンをつけてもらっている猫がいたり、子どもたちの個性がよく表れているペットが出来上がりました。

ペットに名前をつけようとしている子が、自分で「ひらがなカード」を持ってきて、文字の形を確かめながら「はむちゃん」とひらがなで名前を書いてあげています。遊びの中でひらがなを学んでいます。

そして、出来上がった猫や犬を連れて、子どもたちは（頭のなかで想像しながら）散歩に出かけます。想像力を働かせれば、子どもたちは猫や犬を連れて、どこにだって出かけることができます。誰かに会うと「こんにちは。」とあいさつを交わしたりしています。

また別の子は段ボール箱で犬の家を作って、ペットショップをはじめました。「大きくなったら、トリマーになるんだ・・・。」と夢を膨らませているのかもしれない。これはもう立派なキャリア教育になっています。

こうして子どもたちは一人一人、遊びを通してさまざまなことを学んで、成長していきます。

人とのかわりが制限される中、子どもたちも、さぞ窮屈な思いをしているのではないかと心配していましたが、子どもたちは自分の想像力で、広々とした世界を見えています。

子どもたちは本当にたくましいと思います。

